２０１５年２月２５日発行

地域と協同の 研究センターNEWS

126号

巻頭エッセイ

協働・夢プロジェクト５周年を迎えて

今井　信彦

協働・夢プロジェクト専務理事・コープあいち総合企画部生活サポート課

大学生協・南医療生協・コープあいち（設立時は、めいきん生協）の３者で一般社団法人協働・夢プロジェクト（略称夢プロ）を５年前に立ち上げました。

設立時、名古屋市緑区南大高にオープンした南生協病院内の店舗（食堂、ショップ、喫茶）の運営（利用）を軌道にのせること（病院内の利用や対応に関し初めての経験）が初期の目標でした。２年目は、お互いの持っている経営資源を生かした取り組みとして夢プロ主催で「職員採用合同説明会」の開催、２周年記念企画として大学生、生協職員、理事の皆さんが一堂に会して協同組合間提携に関して話し合いを行いました。３年目には、オープン時の初期投資もあり赤字スタートでしたがこの年累積の赤字を解消して黒字に転換しました。４年目には、今後の夢プロの運営（組織、事業）や協同組合間提携事業として協同組合人の人材育成や交流の検討を行いました。

その中で、ここ数年間大学生協の幹部（専務理事を中心に）とコープあいちの幹部との懇談や交流の機会がなく、まずはお互い知る機会として昨年１２月９日に懇談交流会を名古屋工業大学にて開催しました。その中で、互い（大学生協、コープあいち）の問題意識として今後協同組合人の人材育成に向けての教育（プログラム）ひいては学生委員（生協活動をサポートしている大学生）へのアプローチの取り組みの具体化の必要性を共有しました。

その具体化として、この３月４日～５日に大学生協主催の合同会社説明会の中で、共同してのブースの出展（生協、ＮＰＯ、社会福祉法人）と講演会「非営利・協同組合で働くこととは」というテーマで開催します。評価と結果が楽しみです。

CONTENTS

巻頭エッセイ　協働・夢プロジェクト5周年を迎えて　1
共同購入事業マイスターコース 第五期生 実践交流会 報告　2
地域福祉を支える市民協同 パネル活動報告
瀬戸の“窯のひろば”に研究的なまなざしで向き合って　3
会員の活動 表現舎お披露目イベント「表現祭」の報告より
～表現の楽しさで心一つに～　4
情報クリップ　5－7
企画案内・書籍案内　8

研究センター　2月の活動

４日(水)　事務局会議
７日(土)　第１１回東海交流フォーラム
「よりよい“くらし”をつくる地域のつながり」
14日(土)　くらしと生産をつなぐ「もの」づくり
15日(日)　共同購入事業マイスターコース第７回　修了式
16日(月)　尾張地域懇談会　世話人会
18日(水)　第１０回協同の未来塾　修了式
19日(木)　フォーラム職員の仕事を考える世話人会
20日(金)　寄付講義　まとめと次期準備会
23日(月)　ＮＥＷＳ編集委員会　26日(木)協同の未来塾企画委員会
27日(金)　環境パネル世話人会 /理事ゼミナール世話人会

共同購入事業マイスターコース　第五期生 実践交流会　報告

文責：伊藤小友美

今年も豊田市の野田味噌商店の味噌蔵で、表記実践交流会が１月１０日（土）に開催されました。参加者は、２０１３年度共同購入事業マイスターコースを受講され、修了されたマイスターのみなさんです。マイスターコースは、７回にわたりさまざまな講義やグループワーク等を通して、学び合い、考え合い、切磋琢磨する地域担当のプロを育む講座です。当日は、２４名中１７名が懐かしい再会を果たしました。味噌蔵見学、五平餅づくりを通して味噌を体感し、久しぶりのグループワークでは現場での悩みを出し合い、解決の道筋を探り合いました。修了式から一年近くが経ち、忘れかけていたことや一緒に学んだ同志とのつながりを再確認し、新たな気持ちでがんばろうと決意したみなさんに心からのエールを送ります。野田味噌商店無限責任社員（社長）野田清衛さんのお話をご紹介します。

◇　はじめに　◇

まずは、野田清衛さんより「安全安心、高品質は当たり前になってきている今、いちばん問われているのは、どのように組合員さんとの関係をつくるか、どのような情報を組合員さんに伝えるかです。最後のキーワードはコミュニケーション能力。味噌という食品で、くらしの中にどういうメッセージを投げ込むのか。」という強烈な呼びかけがありました。

◇　味噌蔵見学　◇

その後、外気温３度、寒風吹きすさぶ中、しんしんと冷える味噌蔵を野田さんの案内のもと見学しました。みんなが座ったのは、味噌蔵食育学校の木の椅子です。あちこちの廃校になった小学校の木造校舎から集められた木の机、木の椅子、そして「なかよく」と書かれた級訓の額は、時の流れを巻き戻すようです。「味噌はつくるのではなく育てるんですよ。」と野田さんは語り始めました。

◇　４日間　＋　１年半　◇

工場での工程は、　<u>①大豆を洗う→②水に浸す→③蒸す→④塩と水を混ぜ仕込む</u>　です。この工程を経て、大豆の甘みと旨みが閉じ込められます。「最初手をかける部分は４日、あとは１年半蔵や桶の中で育つのを見守る、待つという行為です。」とおっしゃる野田さん。大きな桶の中で、微生物がおいしい味噌を育てていきます。蔵付きの菌、桶付きの菌が味噌を育てていきます。１５０年間命を伝えてきた微生物たちが今も新しい味噌を育ててくれます。ここでは人工的に温度や湿度を調節しない、自然に任せた熟成法をとっています。そうすることでコクや旨み、香りが増し、塩辛さが減るのです。

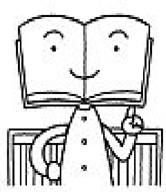
大豆は蒸した後、塩と水を混ぜ味噌玉にします。大きさは子どもの握りこぶし大、形は十字、ボコボコさせているのは、表面積を多くさせるためです。そうすることでバランスのとれた麹（こうじ）がとれるからです。生協の味噌は全部この方式です。大きくすると熟成期間が延びます。小玉の方が短くてすみます。大きい方が時間はかかりますが、味のバランスがよいものができます。

◇　桶の話　変わるべきもの・変わってはいけないもの　◇

５年ほど前に高さ３ｍ、直径３ｍの大桶を新調しました。この桶をつくるのに、２～３年かかりました。材料を探し、新城の山奥へ行き木を切るところから始まりました。桶をつくるための板は、木の赤身（真ん中の部分）しか使えずしかも、年輪に沿って切る板目でなくてはいけません。年輪で水が漏れるのを防ぐためです。８０年くらいは経った直径が１ｍ５０ｃｍはあるような大きな杉の木から、桶をつくる板が２本しか取れないことを教えてもらい、ショックでした。この桶をひとつつくるのに、大きな杉が８０本も要ります。８０本の杉の木は、木こりの青山さんのおじいさんが今から８０年前に苗木を２５００本植えたというところから始まっています。そして１０年経ち間伐し、また１０年経ち間伐し、また１０年経ち間伐、また１０年経ち間伐、間伐を４回行ったそうです。２５００本の苗木の山が５００本の杉の山になりました。５００本の山から選び抜いたまっすぐ伸びた木からできたのがこの桶です。この桶の裏側に、ひと山の山があります。この蔵の中には約４００本の桶があります。この蔵の向こう側には４００の山があったということです。その山の木を切って、我々の味噌蔵が成り立っています。

木桶は面倒くさいので楽にしようとすれば、木桶は要りません。残さないといけないと意識すると残るのです。変わってはいけないものは何かという認識を持っていただきたい。そうすれば変革はできます。その思いを持たずに変革するとわけがわからなくなります。

育てるというあたたかい心を持って、組合員と職員お互いがひとねあうことが生協の本来の姿だと思います。いろんな生産者の方々からの生きた情報を自分のものにして、組合員に伝えるのは職員の重要な役割です。



「地域福祉を支える市民協同」の探求

瀬戸“窯のひろば”に研究的なまなざしで向き合って
―　地域福祉を支える市民協同パネル　―

地域福祉を支える市民協同パネルでは、昨年７月６日、愛知県瀬戸市にある“窯のひろば”を訪問し、運営団体であるNPO法人エム･トゥ･エムの総会にオブザーバーとして参加しました。これは，具体的事例に注目しながら考え合うための、活動現場と組織概要を知る第一歩となりました。この間、パネルに集まるメンバーは調査活動という視点をもちながら課題に向き合ってきています。　　（文責　パネル事務局）

なぜ“窯のひろば”なのか？

そもそも、当パネルでは漠然とした福祉を想定して活動を始めたのではなく、パネルに集まったメンバーの話し合いの結果として、「地域福祉を支える市民協同」というテーマを設定しています。地域福祉は今や日常の暮らしと密着した市民レベルの課題になっていますが、とりわけ「市民協同」については、探求していくべきテーマとしてあらためて問題設定をしました。市民協同を探求するうえでの具体的なモデルとして、窯のひろばとＮＰＯ法人エム・トゥ・エムに注目しています。市民協同を作り出す担い手として注目し、サービスを供給するＮＰＯというよりはむしろ、地域資源の発掘と組み立てを担う中間支援団体としての有り様を探っています。

エム･トゥ･エムへの関わり方は・・・

毎月定例開催される窯のひろばでの理事会には、オブザーバーとして小木曽洋司氏（中京大学/現代社会学/パネル世話人）が加わり、主な動きや課題を受け留めています。パネルのメンバーは、地域資源の組み立てに関わるいくつかの企画にこの間参加をして、実態をみつめてきました。（①～④）

①2014年10月5日瀬戸市菱野団地萩山台健康まつり（萩山台公民館）　②10月11日～12日職人参道まつり　③10月25日（地域に根差した生活支援を考えるフォーラム（菱野センタービル大ホール）　④福祉マルシェさるなかとんな（菱野ウイングビル商店街）　他に、窯のひろばで定期開催している「せと・おせっかいプロジェクト」についても注目しています。　窯のひろば（NPO法人エム･トゥ･エム）は場の継続問題に真正面から向き合い、話し合いを積み重ねながら、新しい地域福祉社会を創ろうとしているようです。

パネルでは、地域社会の担い手としての共感を大切にしながら自らの言葉を紡ぎだし、市民協同の意味が伝えられるように活動しています。

⇦「さるなかとんな」は、反対から読めば「なんとかなるさ」

会員活動

表現の楽しさで心一つに

表現舎お披露目イベント「表現祭」の報告：田中義二

料理Gの仕込み作業。愛三岐の郷土食で参加者の昼食作り

いけ花G。男性も子供も。牛乳パックなど日用品が花器に変身

展示Gの写真展示作業。三重の農の四季が美しい

絵画Gの作品。大勢の参加者が描き込んで出来上がり

コーラスG。ポコ・ア・ポコ久しぶりの唱歌。楽しかった！

「みんなで作れば楽しいな」「みんなで食べればおいしいな」。こんな宣伝文句で取り組んだ「表現祭」。参加者の感想は「ほんとに楽しかった」「すごくおいしかった」。？！…。それは目の前の取り組みに追われていた表現舎の者には思いがけない声でした。終了後もその声が届いて、「やって良かった」と思っているところです。

「表現舎」の立ち上げは３・11がきっかけです。原発反対の思いは持ちながらも、必要な時に声を上げてきたとは言えない。その自戒から「思いは表現してこそ生きる。しかし、『表現』のきっかけや手段を知らない市民が大勢いるのではないか。表現手段はさまざまだが、私たちには芸術・文化組織で培ってきた技量がある。それを生かして市民の文化的『表現』を支援しよう」と立ち上げたのです。文団連会員が主な構成員です。

そのお披露目として「祭り」をやろう。祭りは心の共有。コミュニティの心を一つにする。と議論を重ねて取り組んだのが「表現祭」です。「あなたの想いを、絵・映像・音・文・花に託して形にしよう。それが集って一つの物語に。そんなお祭りを」とチラシで呼びかけ、集ったのは、料理・ダンボール工作・絵画・いけ花・朗読・展示（写真・短歌）・コーラス・フォークソング。それらを観て聞いて食べるグループ（終了後感想を書く。それが「表現」）、そして１日を写真・動画にする記録の10グループ。参加大人49、子供６、計55人でした。

製作中はどこも笑顔、笑顔。学童の子たちは反り返って笑っています。ものを作る、表現する、それをみんなでやることがそんなに楽しいのか、改めて気付かされました。「みんなで仕事をした後でみんなで食べる食事はすごくおいしい」とこれもほとんど全員の声でした。

記録動画も２本できました。内１本の終幕テロップは「みんなちがってみんないい」「みんなと一緒ですごくいい」。まさに「自立」と「協同」の良さを表現しています。この「祭り」からそれを感じていたのです。

※12月７日(日)9:30～15:００/生活文化会館４階３階

フォークGの熱演。東北の被災者にも思いを込めて

情報クリップ

メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価(頒価)
▸生協の未来に向かって私たちの組織づくり ＮＡＶＩ 2015. 2 755 日本生活協同組合連合会	**特集　生協の未来に向かって私たちの組織づくり** ＜僕らは商品探偵団＞　ふっくらやわらか　うなぎ蒲焼 ＜声に応えた商品レポート＞　組合員・職員・取引先の間で「声の循環」 ＜全国のラブ・コープ・キャンペーン♪ラブコが行く＞ **コープみえのラブコープキッチンに参加したよ！** ＜突撃☆あなたの街の組合員活動＞鳥取県生協 ＜進化する生協の店づくり＞　コープみやざき　花ケ島店　PARTⅡ ＜こんにちは！生協男子ですっ！＞ 生活クラブ風の村はぐくみの杜君津　　高中拓輝さん ＜宅配・現場レポート＞　ララコープ　メディア活用による宅配事業の訴求 ＜つながろうCO・OPアクション情報＞ コープみらい　パルシステム埼玉　みやぎ生協 ＜明日のくらし　ささえあう　COOP共済＞　コープあきた ＜生協人の基礎知識＞　第11回　組合員とのコミュニケーション ＜CO・OPニュースフラッシュ＞ ユーコープ　コープしが ＜この人に聴きたい＞　　女優　洞口依子さん	2015年 2月 A4版 35頁 定価 350～円
▸ 悲しみと向き合う人へ 医療生協の情報誌 ＣＯＭＣＯＭ 2015. 2 570 日本医療福祉生活協同組合連合会	**▸特集　悲しみと向き合う人へ　家族に寄り添う看取りとグリーフケア** ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ　大切な人を亡くした悲しみに寄り添う「グリーフケア」 自治医科大学　看護学部　教授　宮林幸江 ［バンビのつぶやき　26］ 天国逝きも地元主義　　店主　中根桂子 ［現場のひらめき地域のひらめき　第2回］ 自立支援プログラムで利用者に生きる自信と喜び 大阪いずみ市民生協　デイサービス「コープアイケアセンター上野芝」 ［みんなで健康づくり　第2回］　会津医療生協（福島県）猪苗代支部「からまつ班」 班会で尿塩分調査 ［リポート］尼崎医療生協病院　緩和ケア病棟 グリーフケアプログラムで重層的な遺族支援を実践 ［協同のある風景］225 「おとこ介護もいいんだに」　上伊那医療生協	2015年 2月 A4版 40頁 定価 400円
▸ 共同農場が発する農業力の衝撃 社会運動 2015. 1 416 市民セクター政策機構	**特集1　共同農場が発する農業力の衝撃** やさか共同農場　（島根県浜田市弥栄町） ―4人から始まり今や地域になくてはならない存在へ 1　弥栄之郷共同体　／　やさか共同農場の軌跡 ―山間地における起業・就農支援・地域づくりの可能性　　相川陽一 2　共同農場の「共同」が意味するもの ―共同体から事業へ、そして社会的共同へ　　佐藤 隆 3　農村と都市をむすぶ共同農場の可能性　　佐藤大輔 4　ふたつの農場の強みを生かす農業を構築したい　　竹岡篤志 5　国際家族農業年に思ったこと　　加藤好一 能勢農場　（大阪府豊能郡能勢町） ―生産現場と流通（消費者）が協同する類まれなコモンズ 1　能勢農場とは　―悪くなる社会の中で輝きを増す農場＝コモンズ　　津田道夫 2　Kさんと畑仕事をしながら考えてみる　　津田道夫 3　自然の前には人の能力差はちっぽけだ　　寺本陽一郎 4　子牛に関わることの奥深さ　　畑邉藍子	2015年 1月 A5版 143頁 定価700円

	特集２　「官民が溺れる排外主義」批判　―現代の鬼畜米英論を葬送する 1 「外圧に抗する快感」を生きる社会　―「慰安婦」問題の背景　太田昌国 2 反ヘイトスピーチ裁判の原告として　李信恵 3 日本軍の「慰安婦」と性暴力　渡辺美奈 4 「慰安婦」問題とは何なのか 世界の多彩な協同組合 （第3回） 小さな協同組合の歩み ―生活協同組合「熊本いのちと土を考える会」 本田一幸 商品たちの素性 （第3回） トクホ飲料の正体　中野寿ゞ子 女性作家たちの声 （第3回） 共に生きることを問い返す ―『架け橋きこえなかった3.11』　今村彩子 追悼 舩橋晴俊先生　市民が育つことで初めて解決できる　田中優子 今、日本が抱える貧困について　湯浅誠 NAMを語る（第3回）　NAMの中で出会った問題　柄谷行人	
▸欧州の社会変動 **生活協同組合研究** 2015. 2 469 （財）生協総合研究所	■ 巻頭言 Apres nous deluge? －談合のない社会－　山部俊文 **▸特集　欧州の社会変動　－直面する課題とその背景** この特集の企画にあたって　大津荘一 スウェーデンにおける近年の経済成長の特徴と政治の変化　佐藤吉宗 イタリアの協同組合運動その歴史的背景及び政治との関係　伊藤武 キャメロン政権下のイギリス福祉国家 －緊縮財政と「大きな社会」－　近藤康史 転換期のスペイン　－経済危機と合意の終焉－　中島晶子 ■ 海外情報 韓国国際社会的経済フォーラム・iCOOPツアー参加レポート　山崎由希子 ソウル2014GSEFと4生協の訪問より　鈴木岳 第11回ICA－AP地域総会およびILO・UNICEF視察に参加して　宮崎達郎 ■ 時々再録 秋田県藤里町の引きこもり対策事業支援報告　白水忠隆 ■ 新刊紹介 池本美香編著『親が参画する保育をつくる』　汐見和恵 高橋威知郎『14のフレームワークで考えるデータ分析の教科書』　並木静香	2015年 2月 64頁 B5版
▸経営戦略の 重要な機能としての 広報活動 **月刊ＪＡ** 2015.2 720 全国農業協同組合中央会	**特集　経営戦略の重要な機能としての広報活動** **～トップ広報、地域密着型広報の実践に向けて** 【解説】有効な広報機能の発揮に向けて　JA全中広報部 【報告】ストーリー広報の重要性　川面克行 【提言】経営力、信頼の向上に資する広報戦略とは　上野征洋 ・きずな春秋　－協同のこころ―　童門冬二 ・ミノーレからこんにちは　／　JAグループ共通コンテンツ ・地方紙ニュース　第47回 「食は命の源」を学ぶ ～次世代にいかにつなぐか　岡村博（新日本海新聞社） ・直言！JAへのメッセージ データから見る花業界　旬の花を毎週提案するには 桐生進（株式会社 大田花き花の生活研究所所長） ・JAトップインタビュー　組合員を支え、発信力を高める 栃木県JAうつのみや 理事長 小島俊一 ・地域・支店から『戦略』を考える 組織と活動の復権を　増田佳昭 ・展望 JAの進むべき道 所得格差、地方創生と農業、農業協同組合　大西茂志 ・海外だより［DC通信］45 オバマ大統領とアメリカ議会　古林秀峰 ・見せましょう、協働の底力！ 学校は今も昔もよりどころ（後編） NPO法人四季の学校・谷口（山形県金山町）　青山浩子 ・トピック 直売所とレストランを」拠点としたJA交流事業の展開 JA全中暮らしの活動推進部	2015年 2月 A4版 64頁 年間購読料 4.800円（送料込）

	次代へつなぐ協同実践塾 ・持続可能な農業の実現 JAの継続可能な発展を目指して　JA全中営農・経済改革推進部 ・豊かで暮らしやすい地域社会の実現 平成27年度介護報酬の改定について　JA全中くらしの活動推進部 ・10年後JAが存続するために 内部管理態勢の強化の取り組みの方向性　JA全中経営指導部	
▸地域から この国をつくる時代に **文化連情報** 2015. 2 443 日本文化厚生農業協同組合連合会	農協組合長ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ（13） 系統組織は必要です　高橋専太郎 協同活動を再構築し、情勢を切り開く　木内健行 院長リレーｲﾝﾀﾋﾞｭｰ（281） 守っていくもの、変えていくもの　渡辺　仁 仁木学長の医療時評（128） 衆院選結果と第三次安倍内閣の医療政策を複眼的に考える　二木立 **地域からこの国をつくる時代に**　田代洋一 伊勢原協同病院の病院給食（1） どうして伊勢原協同病院が「地産地消」なのか　石井洋子 第5回メディエーター養成研修講座（基礎編）報告　秋元恵介　小山森也 多くの職員に見につけてほしい技法　加賀明彦 第2回厚生連メディエーター実践者スキルアップ研修会報告　西出健史 WinWinの関係を目標に　高橋美紀子 **小規模農家だったらなぜいけないのか？！　村上一彦** 岐路に立つ日本のエネルギー政策（6） 転換点にある日本のエネルギーシステム　大島堅一 第5回厚生連医療材料対策研究会報告　下村出 岡田玲一郎の間歇言（128） 経験的職員研修論　岡田玲一郎 ノバルティス社「ディオバン」問題を考える（4）　片平洌彦 野の風●「さわだ」の農地は「さわだ」で守る　石山忠雄 デンマーク＆世界の地域居住（69） イギリスの地域資源：マギーズセンター　松岡洋子 グーテンターク、ドイツ（5） ドイツのカーニバル　鵜殿博喜 オアジ　—　就労支援職業訓練施設・障害者作業所　小磯　明 「JA高岡もえぎの里」における福祉事業の取り組み　荒木富美子 第2回厚生連診療情報管理士研究会報告　片平哲也 書評 『社会保障、その政策過程と理念』　小磯　明 線路は続く（83）テクノポリス　宇部線　西出健史 最近みた映画　滝を見に行く　菅原郁子	2015年 2月 B5版 88頁 文化連情報編集部 03-3370-2529 ＊注

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(✤)などを中心に順不同で紹介しています（主な内容は目次等から事務局が要約しています）。　詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

企画案内

飯舘村の三代目牧場主が語る　原発事故から4年～福島の今～

● 2015年3月11日（水）15:30～17:00

●名古屋YWCAビッグスペース（名古屋市中区新栄町2-3/地下鉄「栄」東5番出口より東へ2分）

お話：細川徳栄さん
（細川牧場三代目当主）

事故後、全頭殺処分をして避難しなければならなかったが、馬を見捨てることができず、他の牧場から牛なども預かって世話を続けるものの、原因不明で馬が次々と亡くなっている。現在、東京電力を相手取り、損害賠償の訴訟を起こし、裁判中。

参加費：800円（中学生以下及び原発事故避難者は無料）
申込不要

東日本に甚大な放射能汚染被害をもたらした福島原発事故から４年が過ぎようとしています。その汚染は現在も続き、将来的に健康被害が拡大することも懸念されます。あらためて、今も続く放射能被害の実態、特に福島で起きていることを知り、東海地域に住む私達が何をすべきかを考えたいと思います。（主催者HPより）

【主催/問合わせ先】 未来につなげる・東海ネット　名古屋市昭和区鶴舞3-8-10-201
090-1099-1520　⇒https://tokainet.wordpress.com/　　共催：チェルノブイリ救援・中部

書籍案内

沈みゆく大国　アメリカ　集英社新書

著者：堤未果　定価：本体720円＋税
判型：新書判206ページ　発売日：2014年11月14日

１％の超・富裕層」が仕掛けた“オバマケア”で、アメリカ医療は完全崩壊！次なるターゲットは、日本だ！

鳴り物入りで始まった医療保険制度改革「オバマケア」は、恐るべき悲劇をアメリカ社会にもたらした。「がん治療薬は自己負担、安楽死薬なら保険適用」「高齢者は高額手術より痛み止めでOK」「１粒１０万円の薬」「自殺率１位は医師」「手厚く治療すると罰金、やらずに死ねば遺族から訴訟」。これらは、フィクションではない。すべて、超大国で進行中の現実なのだ。石油、農業、食、教育、金融の領域を蝕んできた「１％の超・富裕層」たちによる国家解体ゲーム。その最終章は、人類の生存と幸福に直結する「医療」の分野だった！

目次　はじめに　父の遺言
序章　「１％の超・富裕層」たちの新たなゲーム
第一章　ついに無保険者が保険に入れた！
第二章　アメリカから医師が消える
第三章　リーマンショックからオバマケアへ
第四章　次のターゲットは日本

集英社新書ホームページより

2015年2月25日発行（毎月25日発行）
定価200円
（税・送料込み。年会費には購読料が含まれています）
発行　特定非営利活動法人地域と協同の研究センター
代表理事　西　川　幸　城
〒464-0824　名古屋市千種区稲舟通1－39
TEL　052-781-8280　FAX　052-781-8315
E-mail　AEL03416@nifty.com
HP　http://www.tiiki-kyodo.net/

研究センター　３月の活動予定

３日（火）常任理事会　５日（木）三重のつどい世話人会
６日（金）第６回理事ゼミナール
９日（月）食と農パネル世話人会
11日（水）生協の未来のあり方研究会
12日（木）研究フォーラム職員の仕事を考える世話人会
三河地域懇談会　実行委員会
13日（金）岐阜地域懇談会　世話人会
17日（火）くらしを語りあう会
18日（水）地域福祉を支える市民協同パネル世話人会
19日（木）常任理事会／共同購入事業マイスターコース企画委員会　27日（金）ＮＥＷＳ編集委員会
28日（土）第１１回東海交流フォーラム実行委員会
まとめの会　／　第５回理事会